令和５年度「ヤングケアラー」の実態に関する調査報告書概要（山梨県）

R6.3

調査目的・調査方法・調査対象

・調査目的：山梨県内児童・生徒のヤングケアラーの状況及び保護者の家庭でのヤングケアラーの状況やニーズ、県民のヤングケアラーの認知度や支援意向等について把握し、経年の変化を把握するとともに、ヤングケアラーに対する必要な支援策を検討する基礎資料とする。

・調査対象、方法
調査時期

調査名	対象	調査の概要	調査方法	調査時期	対象者数	有効回答数
子ども調査	県内の学校に通う小学6年生、中学生、高校生	県内の学校に在籍する対象者全員に対して、ヤングケアラーの実態や認知度などを把握	学校にてWeb調査	令和6年2月2日～29日	約53,000人	25,242人
県政モニター調査（一般県民）	県政モニターに登録している方	ヤングケアラーの認知度や日常の地域活動等でのヤングケアラーへの関わりや今後の関わり意向等を把握	Web調査／紙回答	令和5年8月29日～9月22日	449人	340件

調査結果（各調査要旨）

＜子ども調査＞

- ヤングケアラーの認知度について、内容まで知っていると回答した子どもの割合は、全体で「聞いたことがあり、内容も知っている」と回答した割合が50.3%と、昨年度と比較して5ポイント減少している。特に、小学生で7ポイント以上減少している。
- ヤングケアラーを知った方法は、「学校」や「テレビ」が多い。「学校」は中学生・高校生では6割程度であるが、小学生では3割となっている。
- ヤングケアラーにあてはまると回答した子どもの割合は、全体で1.0%、「わからない」と回答した子どもは15.8%と昨年度に比べほぼ変化はない。また、「わからない」と回答した子どもの中には、家族のことや自分のために使える時間が少ないといった悩みや困りごとを抱えている子どもがおり、この子どもたちを「ヤングケアラー」と思われる子どもとすると、自身がヤングケアラーに「あてはまる」子どもとあわせて、全体で3.7%となり、昨年度（3.6%）と比べてほぼ変化はない。
- 「ヤングケアラー」や「ヤングケアラー」と思われる子どもは、ヤングケアラーではない子どもに比べ、家族のことに関することや、自分のために使える時間が少ないことについての悩みの割合が高い。
- 周りの大人に助けてほしいことで上位にあがっているのは、「特にない」を除き、「自由に使える時間」「リフレッシュできる時間や場所」「現在の状況を聞いてほしい」「勉強のサポート」となっている。
- ヤングケアラーのうち、家事や家族のお世話を他の人に「助けてもらっている」と回答したのは55.9%で、昨年度の調査（52.3%）に比べて、助けてもらっている割合が高くなっている。
- ヤングケアラーの子どもは、健康状態や日常生活の満足度が他の子どもに比べて全体的に低くなっている。
- 悩みがあった場合に、学校で大人に相談しているのは、36.3%と、昨年度に比べ約6ポイント増加している。特に小中学生で増加の割合が高い。学校での大人への相談のしやすさは、昨年度に比べ、学級担任が同程度、養護教諭やカウンセラーは5～8ポイント程度増加。また、ヤングケアラー相談窓口の認知度は、昨年度同様、2割程度。
- この1年で変わったこととしては、特になしが約5割である一方、「自身が、ヤングケアラーについてよく理解できるようになった」が3割であった。

＜県政モニター調査＞

- 「ヤングケアラー」の認知度は内容まで知っていると回答した人は7割と、昨年度と変化はない。
- 情報源として、年代を問わず多くの人は「テレビ」と回答しており、20～30代はWebサイトやSNSなども多い。
- 身の回りに「ヤングケアラー」と思われる子どもがいると回答した割合は、家族・親族で1.4%、友人・知人で2.8%と、昨年度と比べて微増している。
- 相談窓口を知っている人は昨年度より微増したもののいずれも2割程度、相談したことがある人は1%未満となっている。
- 自身が参加する活動で「ヤングケアラー」と思われる子どもに関われることとして、「関係機関へ相談する」「見守り・声掛け」、「話を聞く」の回答が多い。

各調査を踏まえて見えてきた成果と課題

【「ヤングケアラー」の認知度向上と正しい理解の促進】

■ 「ヤングケアラー」の内容まで知っている割合は、昨年度と比べて、子ども調査では若干減少している。学校で言葉を知ったという割合が高いことから、認知度の向上のためには授業やチラシ配布等による学校での継続的な啓発等の強化が必要であると考えられる。

■ 一方、「SNS」で「ヤングケアラー」について聞いた子どもの増加、この1年間でヤングケアラーについてよく理解できるようになったと回答したこどもが3割いること、ヤングケアラーにあてはまると回答したこどものうち1割が「自分がヤングケアラーだと気づき、困った時は周りの人に助けを求めてよいとわかった」と回答していることから、本県の周知啓発に係る施策について、一定の効果が認められる。

■ 県政モニター調査では、認知度は7割程度と昨年度から変化はなかった。SNS等の様々な媒体での啓発を引き続き行い、正しい理解を促進し、認知度を維持していくことも求められる。

■ 一般県民は、「ヤングケアラー」と思われるこどもがいた場合、自治会・町内会活動等で何らかの手助けをしたいと考えている人もおり、地域住民に対するヤングケアラーの正しい理解の促進と、期待する役割などについての啓発の強化を進めることも求められる。

【相談しやすい環境づくりと相談先の周知の強化】

■ 学校で大人に相談した割合は、昨年度から6ポイント程度増加し、子どもが周囲に相談しても良いと思える意識が向上しているとともに、相談のしやすさについても、昨年度と比べ増加傾向にあり、学校において相談しやすい体制や環境づくりが進んでいるものと考えられる。

■ ヤングケアラーの相談窓口の認知度・利用率は子ども調査・県政モニター調査ともに昨年度から大きな変化はなく、より積極的な広報活動が望まれる。

【ヤングケアラーの子ども自身への支援】

■ 周りの大人に助けてほしいこと・必要な支援は、「ヤングケアラーと思われる子ども」の方が「ヤングケアラー」と認識している子どもよりも、「わからない」という回答に加え、自由に使える時間や場所や学習支援のニーズが高くなっている。子ども自身が自分の状況を理解し、しんどさや悩みごとを周囲の大人にためらわずに言えたり、助けを求められたりできる環境づくりが求められている。

1　子ども調査

・ヤングケアラーの認知度は「聞いたことがあり、内容も知っている」と回答した割合が50.3%と、令和4年度調査と比較して5ポイント減少している。特に、小学6年生で7ポイント以上減少している。
・ヤングケアラーを知った方法は「テレビ」や「学校」が高い。小学生は「テレビ」が、高校生は「学校」が最も高い。小学生では他と比べて「学校」が低い。
・自身がヤングケアラーに「あてはまる」と回答した子どもの割合は、1.0%、ヤングケアラーと思われる子どもは2.7%と、令和4年度調査とほぼ変化はない。

◆ 調査対象、回収状況等

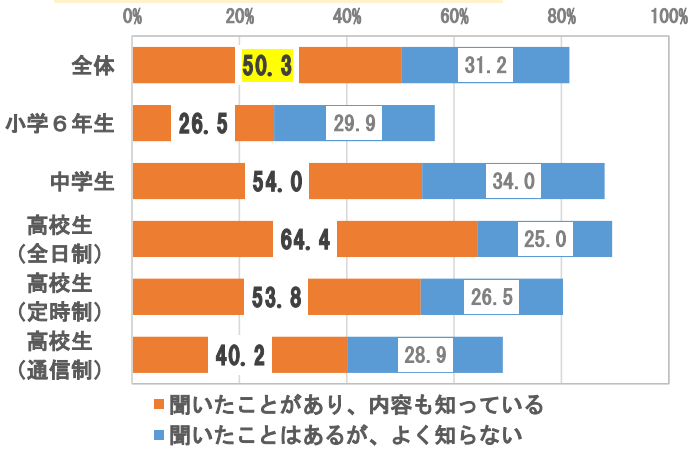
令和6年2月　webにて回答
※全体には学年不明が含まれる。

対象	有効回収数	（参考）令和4年度有効回収数
全体	25,242	28179
小学6年生	5,289	4,714
中学生	14,316	13,989
高校生（全日制）	5,112	8,769
高校生（定時制）	396	605
高校生（通信制）	97	24

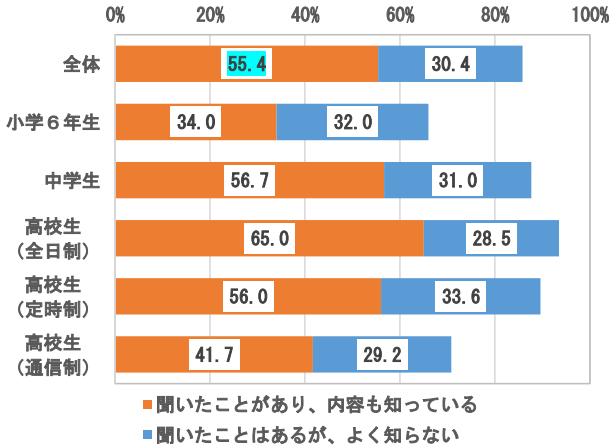
（単位：人）

■ ヤングケアラーの認知度

「ヤングケアラー」の言葉の認知状況

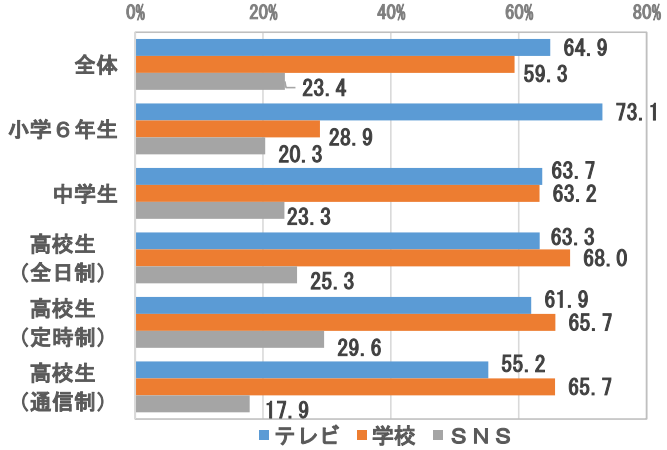


（参考）令和4年度調査「ヤングケアラー」の認知状況



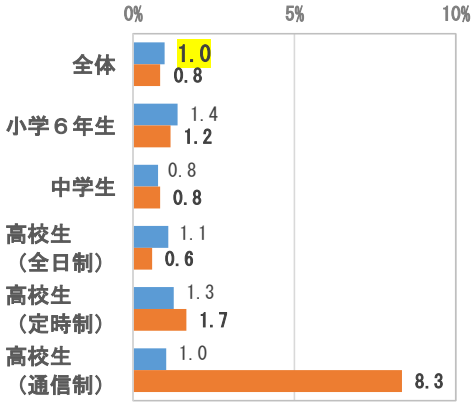
■ ヤングケアラーを知った方法

「ヤングケアラー」を知った方法（上位3つを掲載）

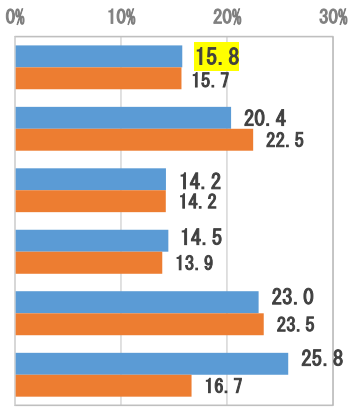


■ ヤングケアラーの存在

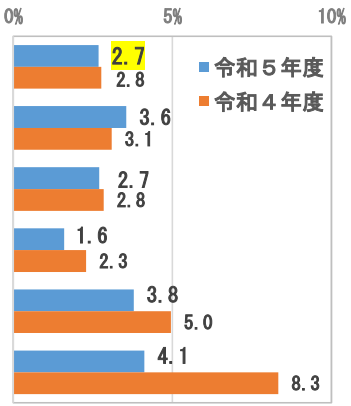
ヤングケアラーに「あてはまる」と回答した子ども



ヤングケアラーか「わからない」と回答した子ども



ヤングケアラーと思われる子ども※



※「ヤングケアラーと思われる子ども」は、自分がヤングケアラーであるか「わからない」と回答した子どものうち、現在悩んだり困っていることとして、家族関係の悩みや困り事などを回答した子ども

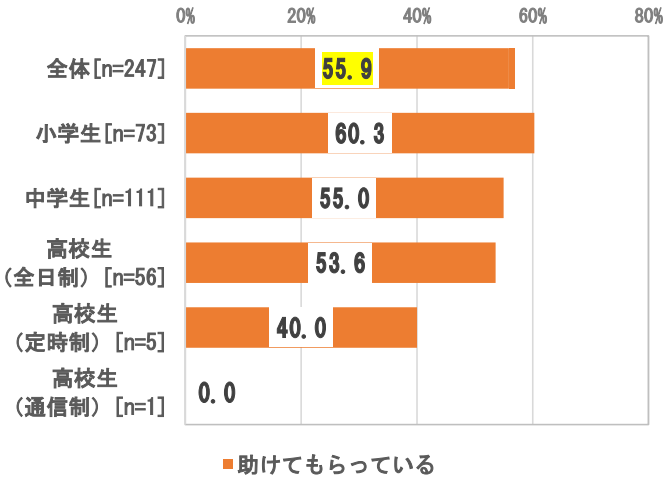
・現在抱えている悩みや困りごとの状況を「ヤングケアラー」（ヤングケアラーに「あてはまる」と回答した子ども）、「ヤングケアラーと思われる子ども」、「ヤングケアラーではない子ども」でみると、「ヤングケアラー」や「ヤングケアラー」と思われる子どもは、ヤングケアラーではない子どもに比べ、家族のことに関することや、自分のために使える時間が少ないことについての悩みの割合が高い。中でも「ヤングケアラー」と比べ、「ヤングケアラーと思われる子ども」の割合が高い。

■ 現在抱えている悩みや困りごと（複数回答）

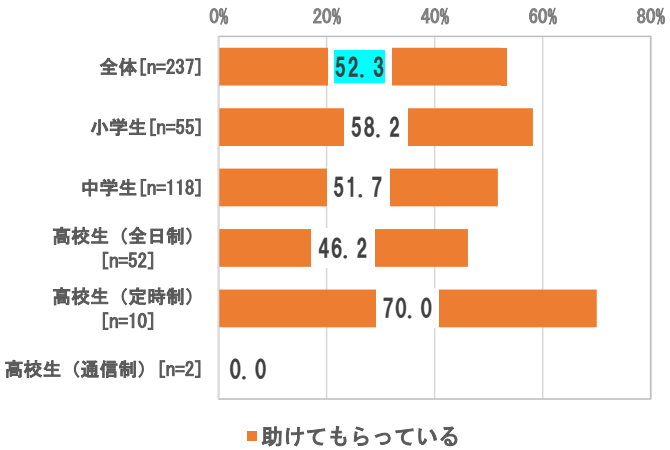
		友人との関係のこと	勉強のこと（学校の成績など）	しょうらいの夢や進路のこと	部活動のこと	じゅくや習い事ができないこと	学校に支払うお金のこと（学費、集金など）	家庭のお金のこと（食べ物を買うお金や必要なものを買うお金がたりないことなど）	自分と家族との関係のこと	家族内の人間関係のこと（両親の仲が良くないなど）	病気や障がいのある家族のこと	家族の通訳のこと	自分のために使える時間が少ない	特にない
全体	ヤングケアラー	30.0	51.0	34.8	18.6	8.1	8.1	10.9	15.0	10.9	7.3	0.8	14.6	24.3
	ヤングケアラーと思われる子ども	45.4	70.2	58.6	31.9	7.1	12.7	18.9	54.4	38.2	18.9	3.1	32.2	0.0
	ヤングケアラーではない	16.1	41.7	35.1	11.9	1.1	2.3	1.9	3.7	2.7	0.8	0.1	1.9	39.6
小学生	ヤングケアラー	31.5	43.8	30.1	20.5	4.1	8.2	6.8	15.1	6.8	4.1	0.0	12.3	27.4
	ヤングケアラーと思われる子ども	48.9	60.1	58.5	34.0	10.6	14.9	18.1	54.8	37.2	19.7	4.3	30.3	0.0
	ヤングケアラーではない	17.8	27.5	23.0	14.7	1.3	1.9	1.7	3.1	2.4	0.9	0.2	1.7	49.2
中学生	ヤングケアラー	34.2	61.3	39.6	16.2	13.5	6.3	13.5	17.1	14.4	9.0	0.9	15.3	19.8
	ヤングケアラーと思われる子ども	47.0	76.7	58.9	32.0	5.7	9.8	15.8	57.1	38.8	18.6	3.1	30.5	0.0
	ヤングケアラーではない	17.2	48.3	36.4	10.5	1.2	1.7	1.7	4.1	2.8	0.8	0.1	1.7	36.8
高校生（全日制）	ヤングケアラー	23.2	42.9	30.4	21.4	3.6	8.9	8.9	10.7	7.1	7.1	0.0	16.1	30.4
	ヤングケアラーと思われる子ども	30.5	68.3	56.1	29.3	4.9	17.1	28.0	37.8	36.6	17.1	1.2	45.1	0.0
	ヤングケアラーではない	11.5	38.3	43.5	13.1	0.4	4.5	2.5	2.9	2.6	0.8	0.1	2.4	37.6
高校生（定時制）	ヤングケアラー	0.0	20.0	60.0	0.0	0.0	40.0	40.0	20.0	40.0	20.0	20.0	20.0	20.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	46.7	46.7	66.7	20.0	6.7	26.7	46.7	73.3	46.7	33.3	0.0	26.7	0.0
	ヤングケアラーではない	11.9	33.7	39.9	9.7	1.3	5.1	4.0	3.8	2.4	0.3	0.0	3.0	40.7
高校生（通信制）	ヤングケアラー	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	25.0	50.0	50.0	0.0	25.0	50.0	75.0	50.0	25.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	ヤングケアラーではない	15.2	42.4	30.4	13.0	1.1	2.2	2.2	6.5	3.3	1.1	1.1	4.3	40.2

・ヤングケアラーが家事や家族のお世話を他の人に助けてもらっているかについて、「助けてもらっている」と回答したのは55.9%で、昨年度の調査に比べて、助けてもらっている割合がやや高くなっている。
・周りの大人に助けてほしいことで上位にあがっているのは、「特にない」を除き、「自由に使える時間」「リフレッシュできる時間や場所」「現在の状況を聞いてほしい」「勉強のサポート」となっており、上位ではないものの、ヤングケアラーは「家族の世話についての相談」や「お世話を変わってくれる人やサービス」をあげる人が約3～10%いる、一方 「ヤングケアラー」と思われる子どもは、「わからない」「自分の時間」「学習面でのサポート」がヤングケアラーより高い。

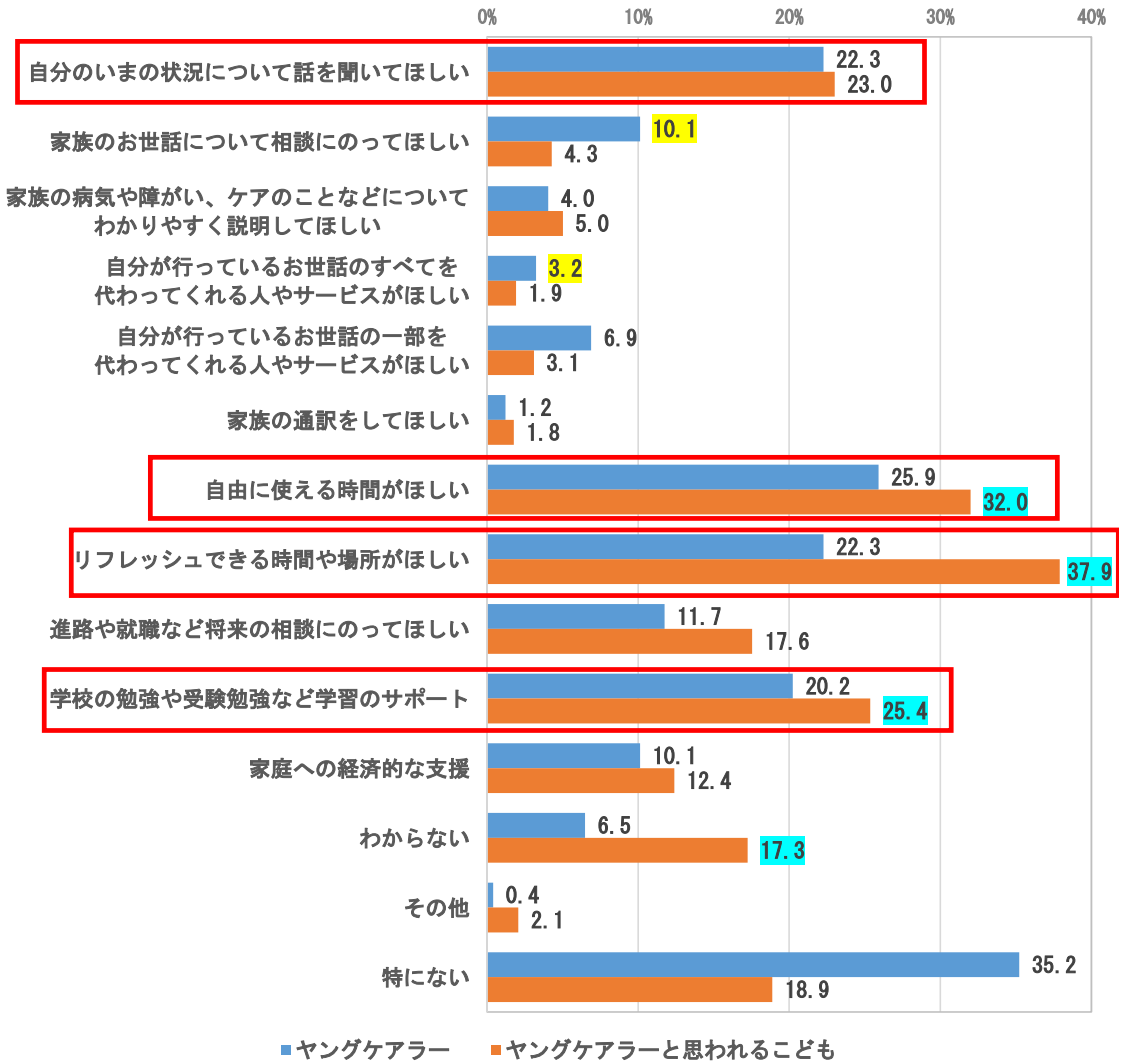
■ ヤングケアラーが家事や家族のお世話を他の人に助けてもらっているか



（参考）令和4年度



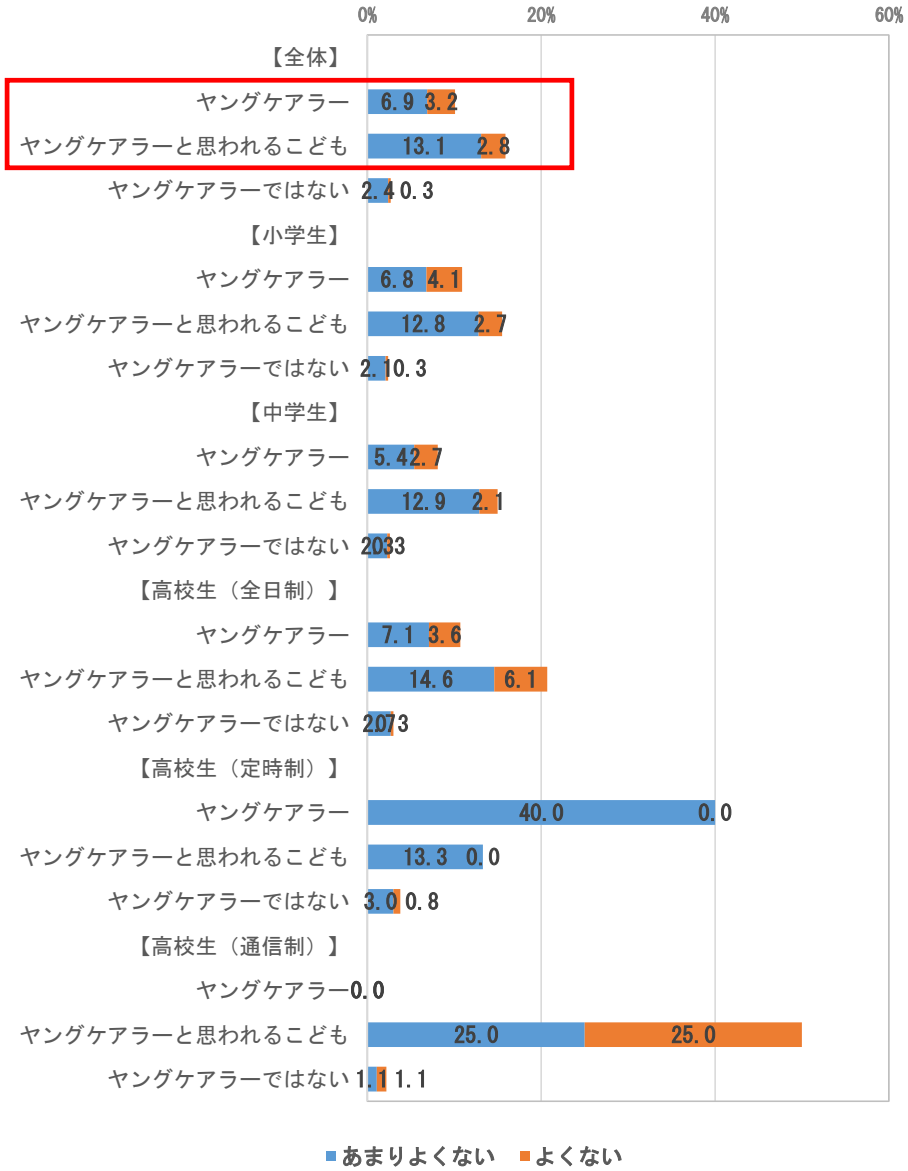
■ ヤングケアラーや「ヤングケアラー」と思われる子どもの周りの大人に助けてほしいこと、必要な支援（複数回答）



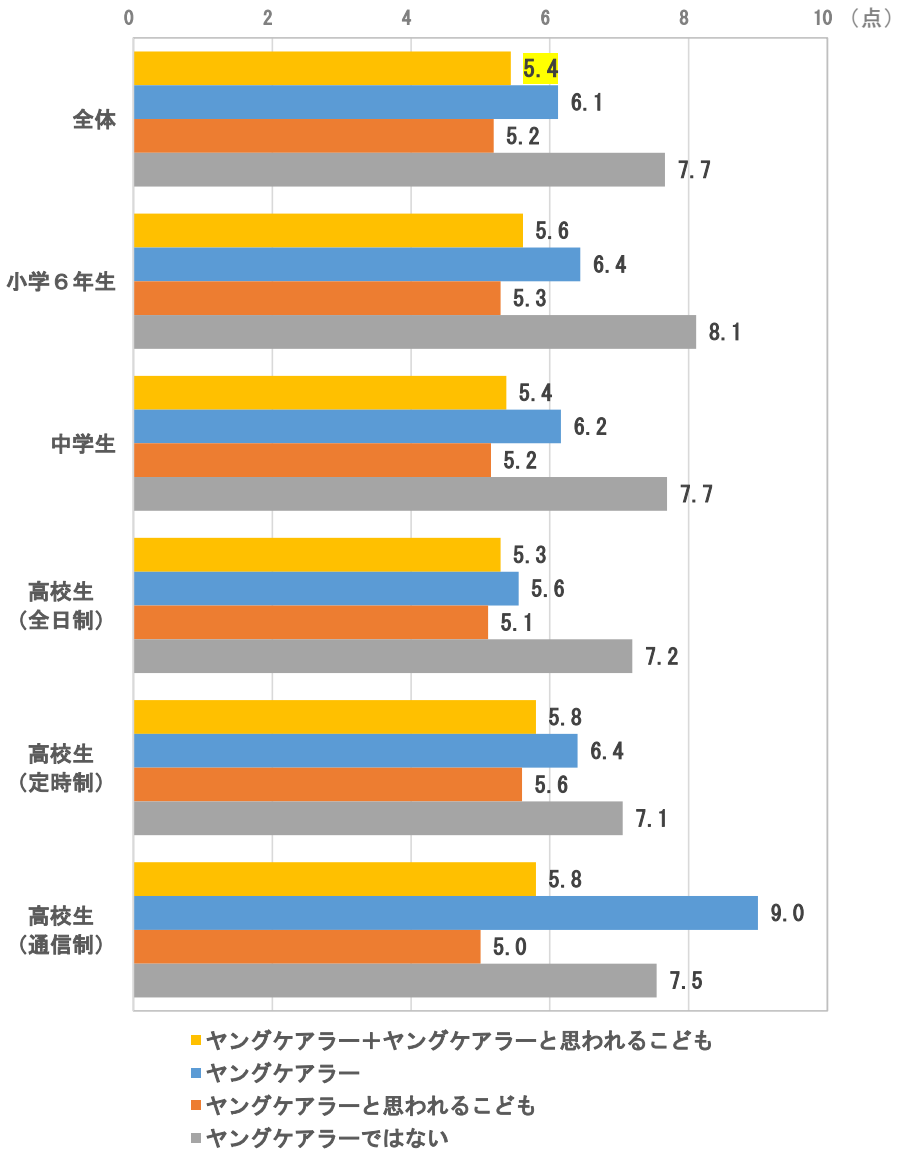
・「ヤングケアラー」「ヤングケアラーと思われる子ども」は、ヤングケアラーでない子どもに比べ、自身の健康状態を「あまりよくない」、「よくない」とする割合が高く、特に、「ヤングケアラーと思われる子ども」が健康状態がよくないとする割合が高い。

・生活満足度の平均は、「ヤングケアラー＋ヤングケアラーと思われる子ども」は5.4点と、ヤングケアラーではない子どもに比べ低い。

■ ヤングケアラー、「ヤングケアラー」と思われる子ども別 自身の健康（あまりよくない、よくないと回答のみ）



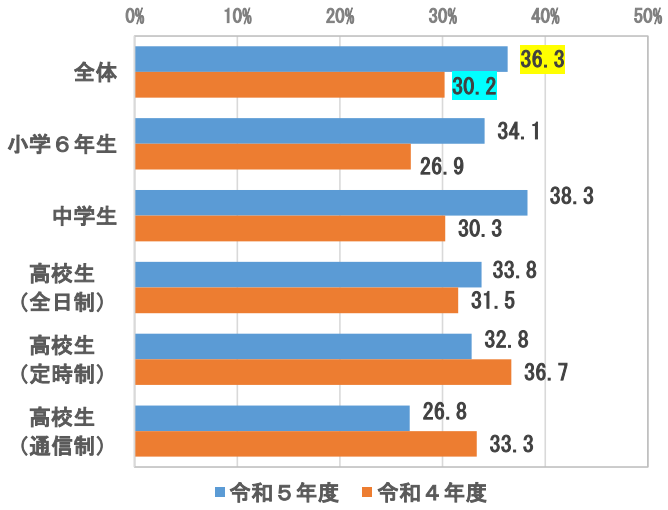
■ ヤングケアラー、「ヤングケアラー」と思われる子ども別 生活満足度（10点をとても満足としたときの平均点）



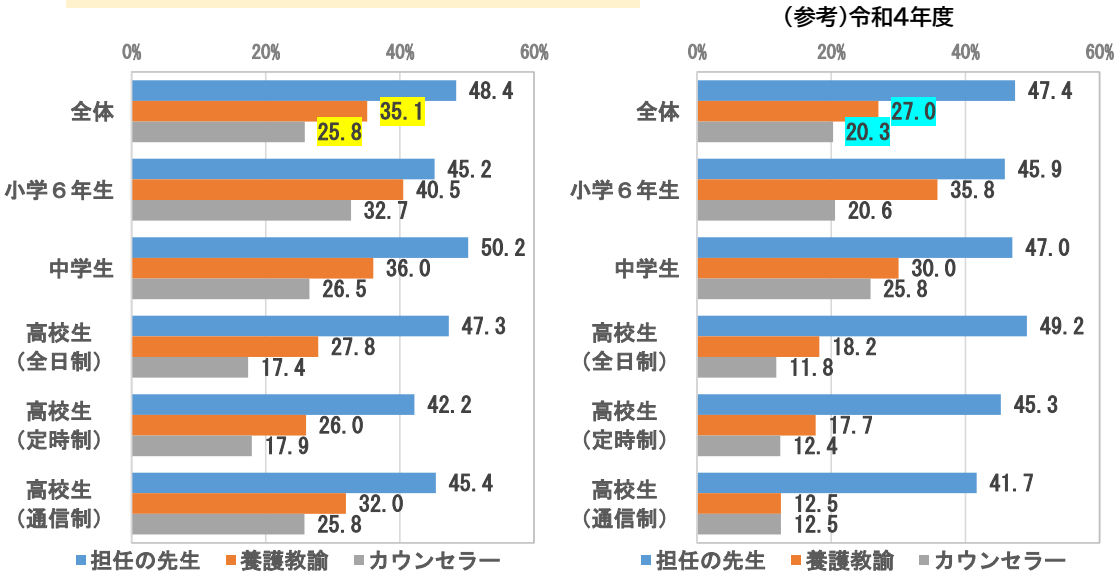
・この1年間で、悩んだり困ったりしていることなどについて、学校で大人に相談したことがあるのは全体で36.3%と、令和4年度よりも6ポイント高い。
・相談のしやすさは、令和4年度と比べて、担任は同程度であるが、養護教諭で8ポイント、カウンセラーで5ポイント増加し、全体でも1ポイント高くなっている。
・相談窓口について、認知度は2割程度と昨年度とほぼ同様、利用状況は、いずれの窓口も「相談したことがある」割合は1%以下となっている。

■ 学校の大人への相談状況

【学校で大人に相談した割合】

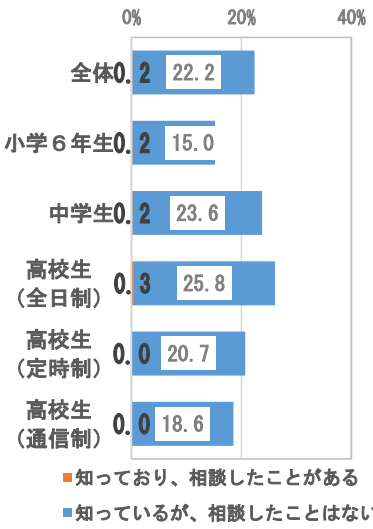


【相談のしやすさ（相談しやすいと回答した割合）】

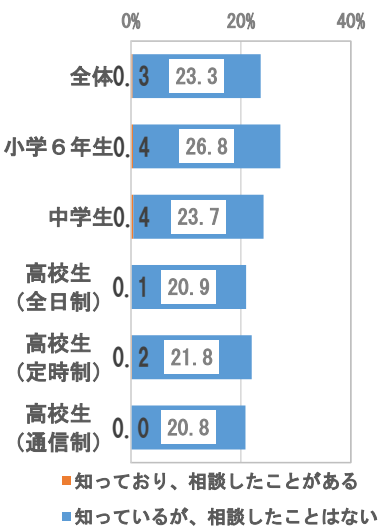


■ 相談窓口の利用状況

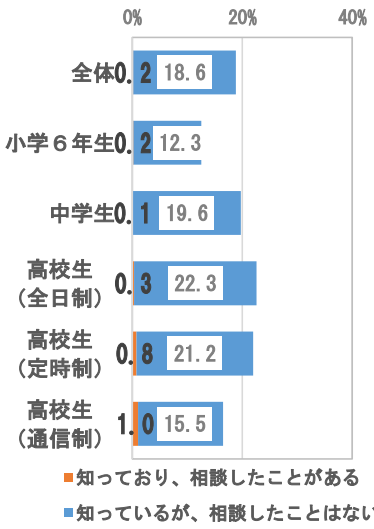
「24時間電話相談窓口」



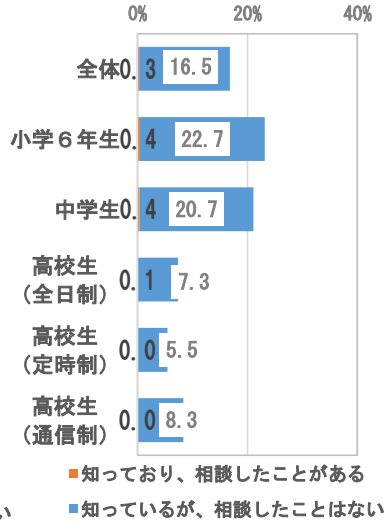
（参考）令和4年度



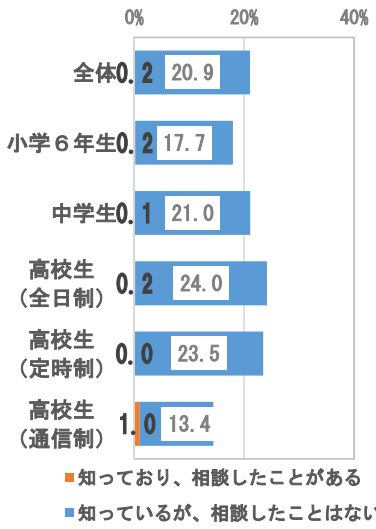
「相談支援センター」



（参考）令和4年度

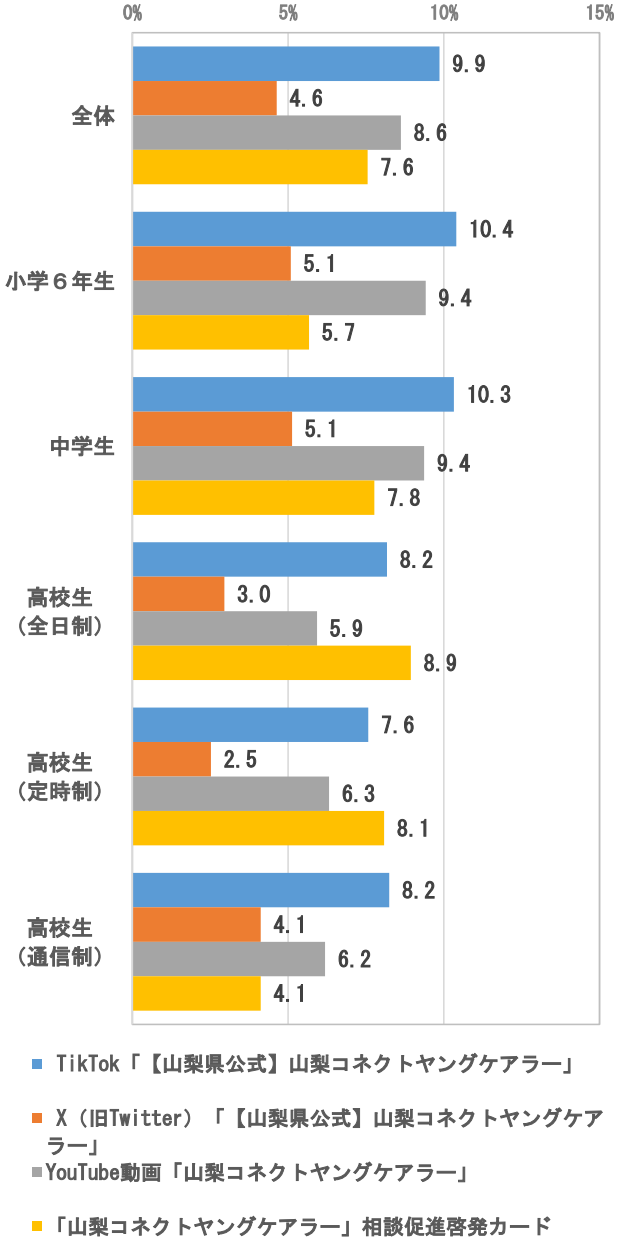


「SNS相談窓口」

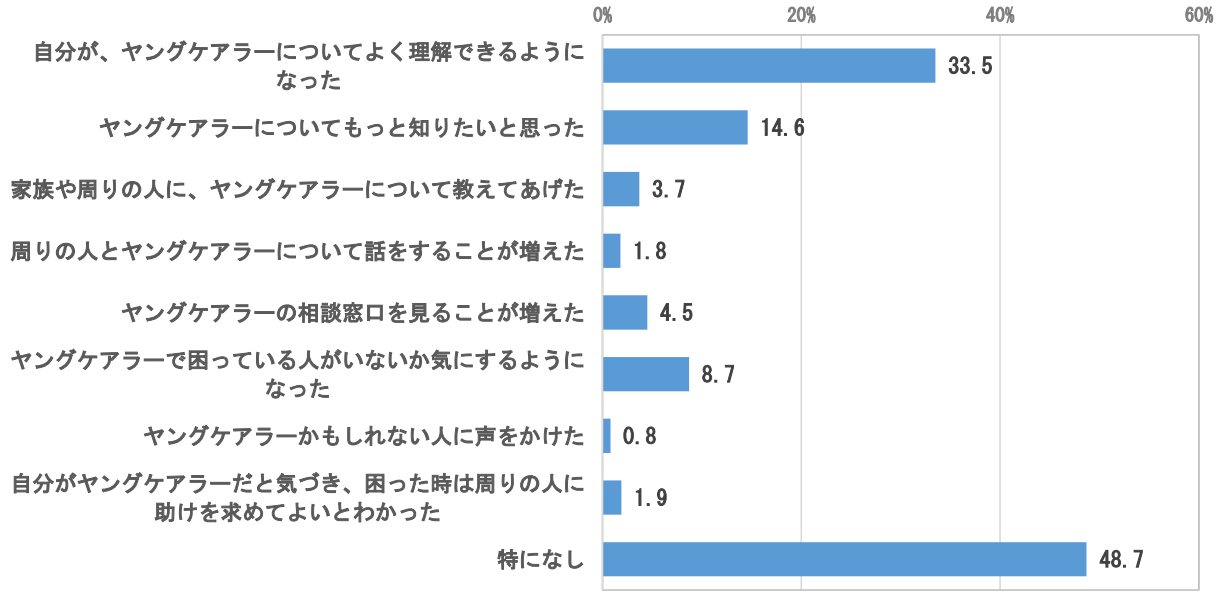


・知っている啓発の取組は、TikTokが1割程度となっており、続いてYouTube（8.6%）、相談促進啓発カード（7.6%）、X（4.6%）。
・この1年で変わったこととしては、特になしが約5割である一方、「自身が、ヤングケアラーについてよく理解できるようになった」が3割であった。
・自由意見では、周りの偏見や他の人に相談を求めたときの態度、自由にできる時間や場所に関する意見が挙がっている。

■ 知っている啓発の取組



■ この1年間で、自身や周りの人の意識や行動で変わったと思うこと（複数回答）



■ ヤングケアラーを助けるため必要なこと、助けてほしいこと（自由意見）

ヤングケアラー	・人とちょっと違うとからかったり、いじめたり、普通の人より弱いという印象をつけたりするのをやめてほしい ・助けを求めた時、「気にし過ぎ」「お前が思っているだけだろ」と決めつけないでほしい ・自由に何でもできる時間、一人の時間がほしい ・家族のメンタルケアをお願いしたい。小さい頃から病気の家族のメンタルケアをしていて辛かった。今も家族の愚痴を聞かされていて辛い
ヤングケアラーと思われる子ども	・相談するのが怖い、しづらい ・大人に相談にのってもらったり、手伝ってもらいたい ・家族の経済的負担を減らしてほしい ・好きな時に逃げてこられる場所がほしい
ヤングケアラーではない	・気軽に話せる場所を作る ・困っていたら相談に乗ってあげて、それでも解決しなかったら大人（親とか先生）に相談する ・たまに家へ行って手伝いをするなど、少しでもサポートしてあげることが最適解だと思う

2　県政モニター調査（一般県民調査）

・一般県民のヤングケアラーの認知度は7割程度と、令和4年度と比較して変化はほぼない。
・情報源として、年代を問わず「テレビ」で知ったと回答している割合が最も高くなっている。

◆　調査対象、回収状況等

令和5年8～9月web等で回答

（単位：人）

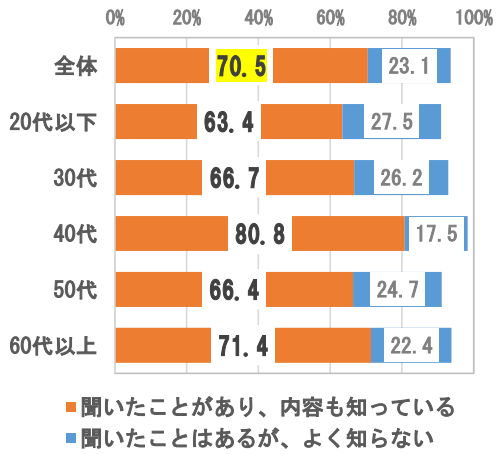
対象	有効回収数	
	R5	（参考）R4
全体	340	324
20代	60	46
30代	41	42
40代	65	49
50代	47	55
60代以上	127	130

※県政モニター調査の集計方法

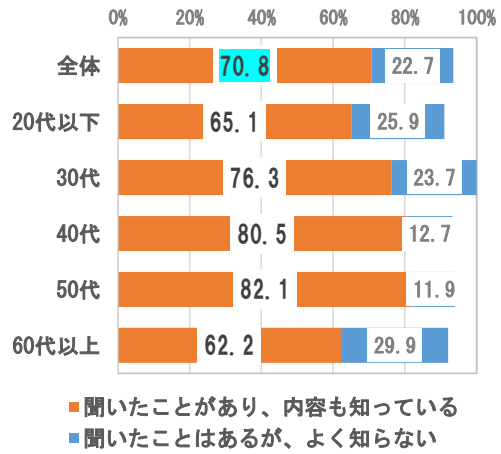
サンプリングによる調査のため、回答者の属性ごとの回収割合は母集団の人口構成と異なる。
そのため、県民の意見を適切に反映できるよう、回答者の属性ごとの回収割合を母集団の人口の構成比にあわせて重みづけをして集計を行っている。

■　ヤングケアラーの認知度、情報入手の経路

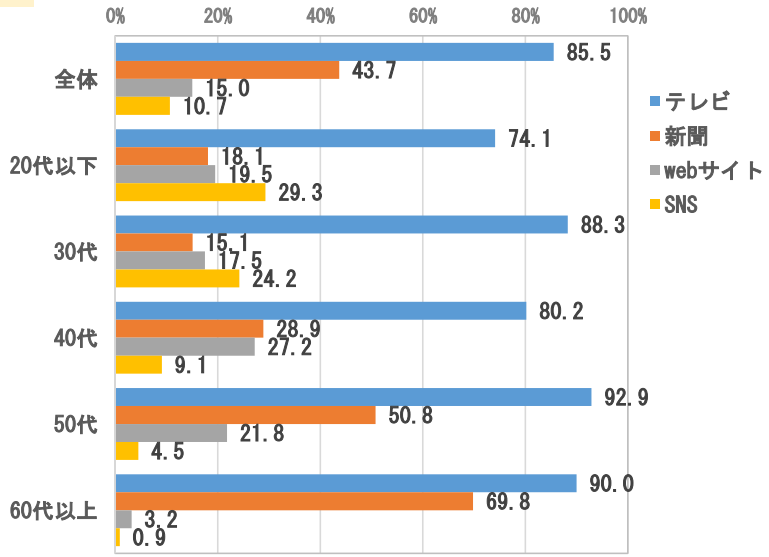
「ヤングケアラー」の認知度



（参考）令和4年度



「ヤングケアラー」を知った方法（上位4つを掲載）

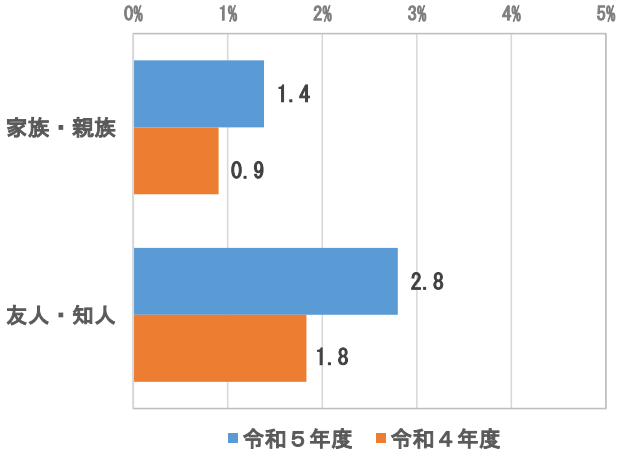


・身の回りで「ヤングケアラー」と思われる子どもがいる割合は家族・親族で1.4%、友人・知人で2.8%と、令和4年度と比べて微増している。

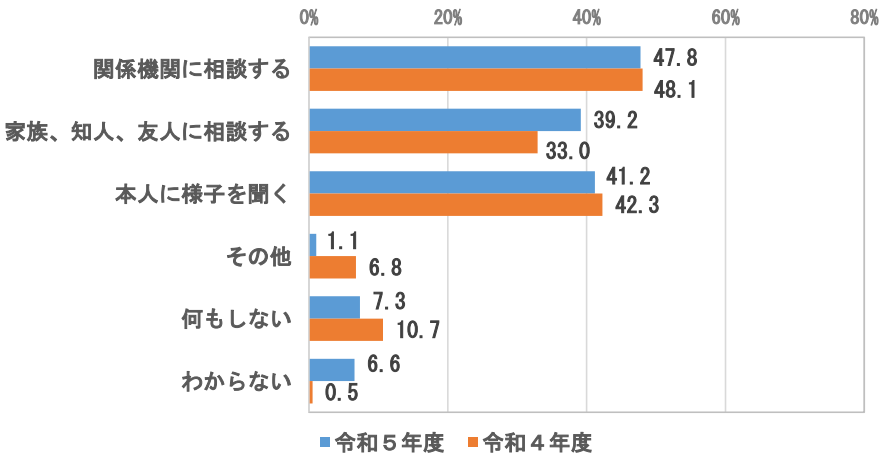
・「ヤングケアラー」と思われる子どもに気付いた際の対応としては、「関係機関に相談する」、「本人に様子を聞く」割合が高く、令和4年度と比べて「家族、友人、知人に相談する」割合も増加している。

・「ヤングケアラー」と思われる子どもに必要だと思う支援は、「ヤングケアラーについて周囲が正しく理解する」、「いつでも気軽に相談できる窓口がある」割合が高いが、令和4年度と比べて「同じような境遇にある人と悩みなどを共有できる場がある」が1割程度増加している

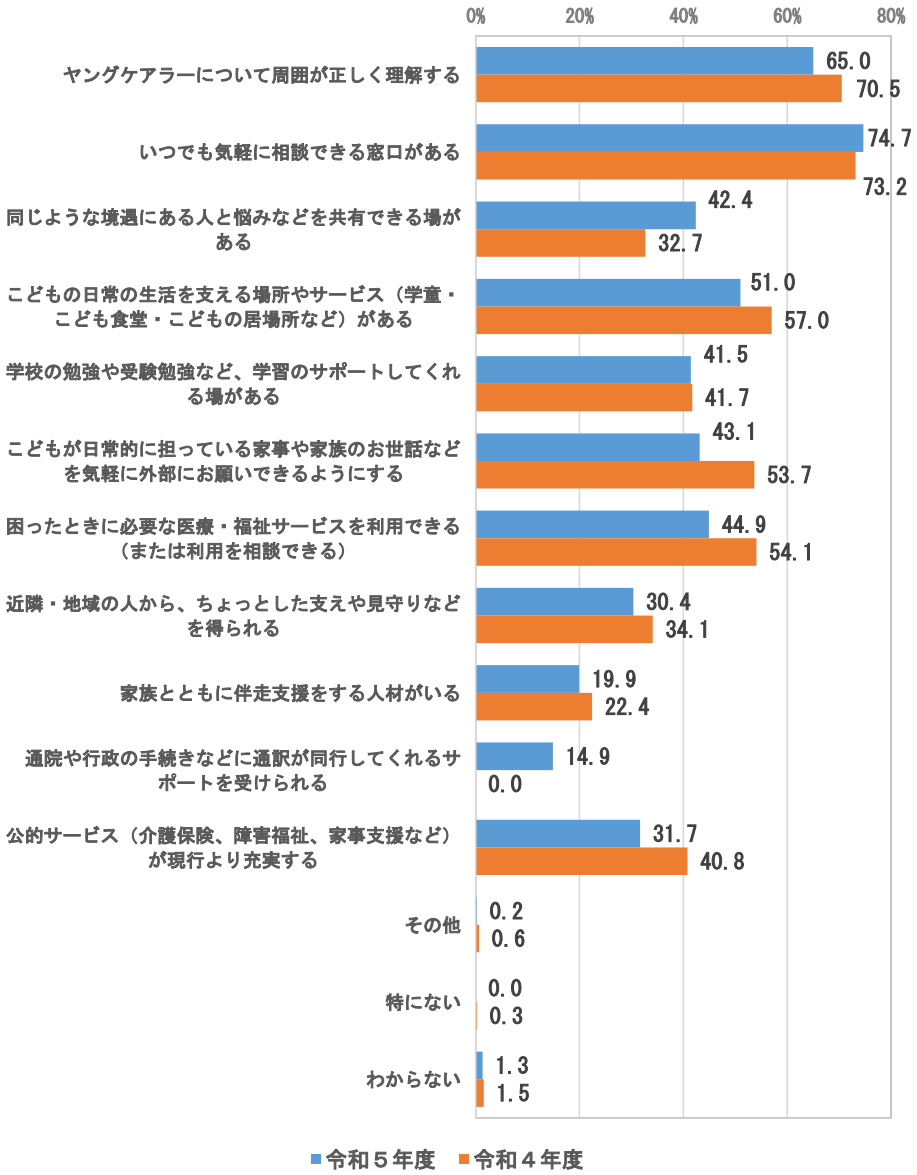
■ 身の回りで「ヤングケアラー」と思われる子どもがいる割合



■ ヤングケアラーと思われる子どもに気付いた際の対応 （複数回答）



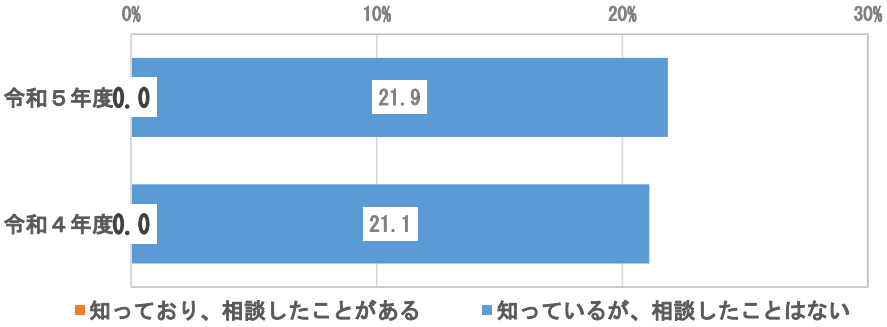
■ ヤングケアラーと思われる子どもに必要だと思う支援 （複数回答）



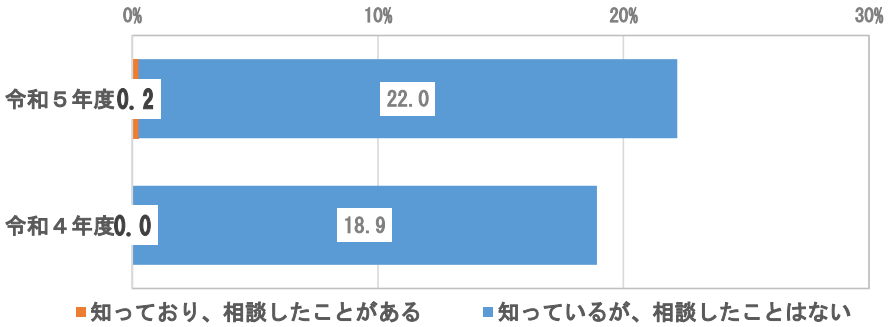
・相談窓口を知っている人は昨年度より微増したもののいずれも2割程度、相談したことがある人は1%未満となっているが、新設したSNS相談窓口の利用状況は他の窓口と比べ高くなっている。
・ヤングケアラーに関するTikTokの啓発動画を見たことがある人は1%未満となっている。

■ 相談窓口の認知度

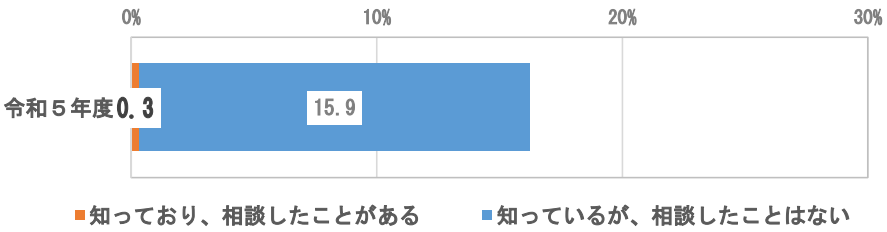
「24時間電話相談窓口」



「相談支援センター」

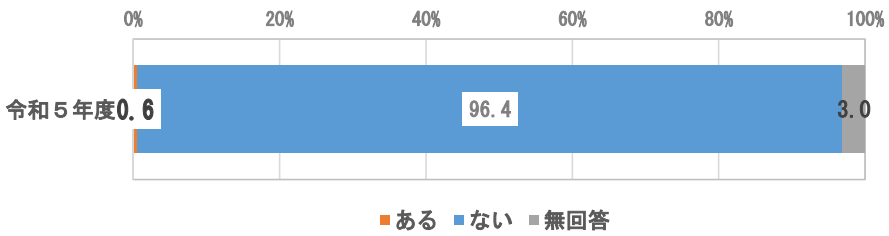


「SNS相談窓口」



■ 啓発動画の認知度

TikTok「山梨県コネクトヤングケアラー」をみたことがある割合

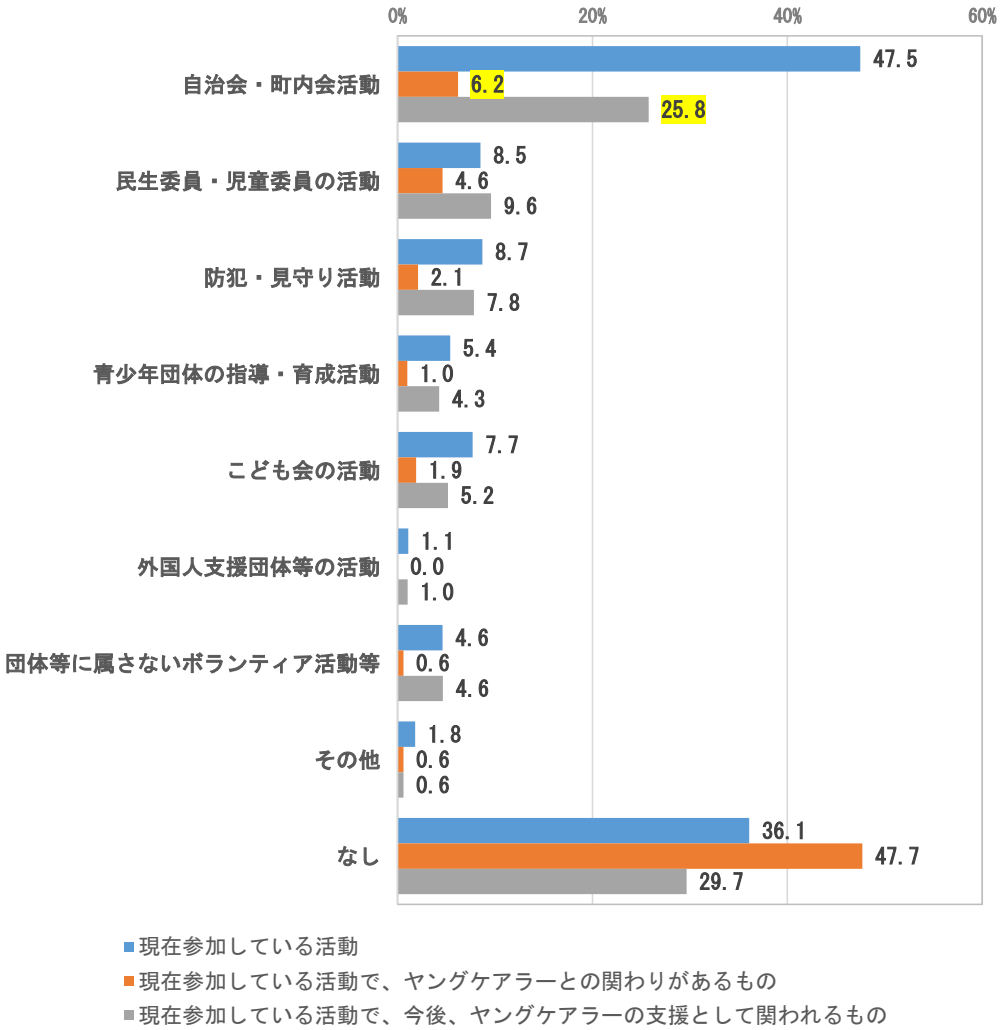
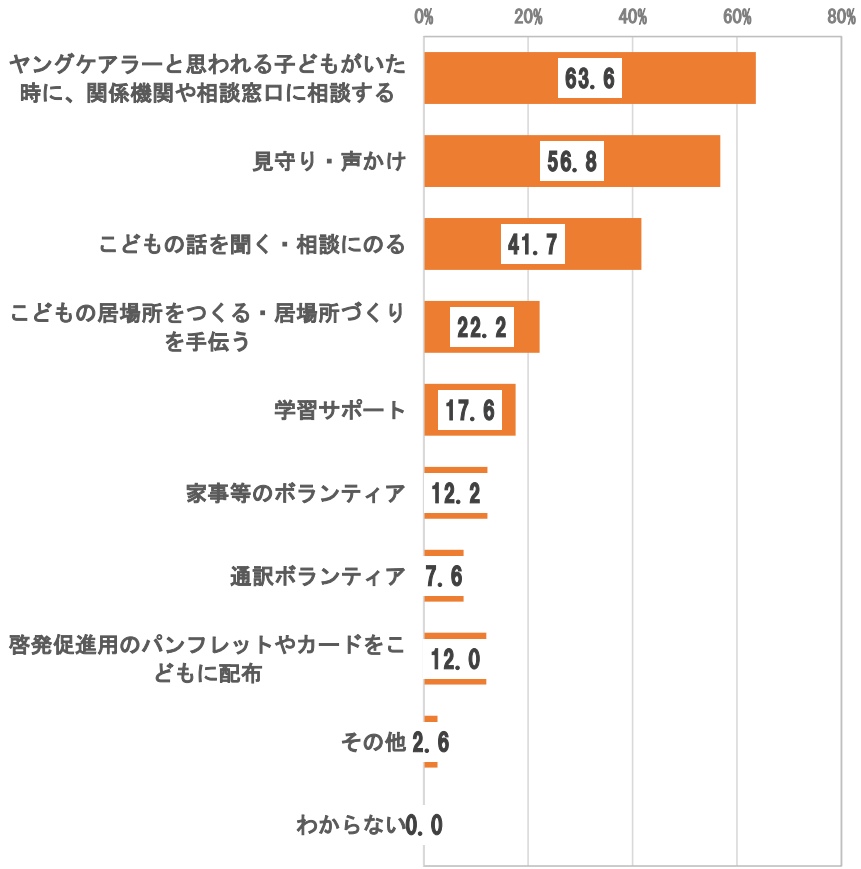


・現在参加している活動で、「ヤングケアラーと何らかの関わりがある」「今後、ヤングケアラーの支援として関われる」のは「なし」を除き、自治会・町内会活動が最も高い。

・現在参加している活動において、今後のヤングケアラーに対する関わり方として、「ヤングケアラーと思われる子どもがいた時に関係機関や相談窓口に相談する」、「見守り・声かけ」、「子どもの話を聞く・相談にのる」をあげる人が多い。

■ 現在参加している地域活動や市民活動と、ヤングケアラーとの関わりや今後の意向

現在参加している活動のうち、ヤングケアラーと関わりのある活動、今後、ヤングケアラーの支援として関われる活動



今後、参加している活動の中で、ヤングケアラー支援のためにできること